

## 平成 26 年度 第 3 回 市民参加推進会議（会議録）

開催日時	平成 26 年 10 月 3 日（金）午後 3 時 00 分から午後 5 時 17 分まで
開催場所	市役所 3 階 会議室 2
出席者	委員 池川悟会長、市川温子副会長、坂野喜隆委員、手塚崇子委員、 林章委員、小林光代委員、田中卓也委員、谷本滋宣委員、 徳本悟委員、三浦永司委員 事務局 市民活動支援課 川上課長、元田主査補、五十畑主事 傍聴者 0 名
議題	平成 25 年度市民参加の実施状況に対する総合評価について（審議）
資料	1. 評価シート 2. 評価シート付表（計算表） 3. 徳本委員提供資料

### （会議趣旨）

- 第 3 回市民参加推進会議を開催し、平成 25 年度に市民参加を実施した 5 つの事業（事務処理市移行推進事業、地域防災計画素案策定事業、ゴミの減量化・資源化推進事業、第 6 期白井市高齢者福祉計画・白井市介護保険事業計画策定事業、子ども子育て支援事業計画策定事業）について審議し、総合的評価を行った。

### （会議内容）

#### 1. 開会

#### 2. 会長あいさつ

- 読書の秋ということで、皆さんしっかりと審査について勉強されてきたと思うので、それについて話していきたいと思う。
- 今回審議する中で、自分の付けた点数について修正できますので、他の委員の意見等を聞いて修正したい場合は修正して良い。
- 審議に入る前に、徳本委員から提案があるので、ご本人からその点について主旨をお話しいただきたい。その後、事務局から調べたことについて報告いただきたい。

### （徳本委員による提供資料の趣旨説明）

- 本資料は、初めて評価を行った人間がどんな感想をもったのかについて、事務局の方に理解いただければありがたいとの考えから送付したものである。
- 今回の評価作業は想像以上に重たい作業だった。十分に細かいところまでは見られなかったが、情報公開コーナーやホームページなどで実態の確認を行った。
- 全体的に、市民が知りたい・調べたいと思ったときに、わかりやすい形での情報提供は、必ずしもされていないと感じた。形式的には色々と揃えているようだが、見るほうからすると見づらいという印象があった。
- 例えば、64 もある審議会の議事録が、審議会という背表紙のファイルに全部入ってしまっており、ただ番号だけが振られている。そしてその中で、インデックスも何もなく綴られている。

- また、調べようとしても審議会の議事録はあるが、配布資料が揃っていないものが多々見られた。要点録だけ見ても、審議会の内容が見えてこないため、そういった情報提供の点について、もう少し考えていただければと思う。

#### (事務局)

- 情報を調べるのは市民の方が多いので、審議会の中でこういった形なら市民が見やすいかといったことについて、6事業の評価について審議が終わった後に市民参加推進会議で検討し、答申書に盛り込んでいければよいと思う。なお、評価作業については、原則、事務局が提供した資料をもとに判断していただければよいと考えており、自ら調べた資料を評価に反映させることを否定するものではない。

#### (池川会長)

- 今日は徳本委員の提供資料について、議論する時間は取れない。
- 6つの事業の評価について審議・評価する本来の仕事があるので、審議が全部終わった後に情報の取り扱い等について、時間を捻出して議論していきたい。

### 3. 議題

平成 25 年度市民参加の実施状況に対する総合評価について(審議)

事前に各委員の意見を取りまとめた評価シートをもとに、各委員が意見を述べ、審議を行った。

#### 【審議要旨】

##### 1. 事務処理市移行推進事業

#### (委員の主な意見)

- パブリックコメント(意見公募)の募集に対しての意見が少ない。PRが足りなかったのではないかと。パブリックコメントの募集や意見交換会の日時設定に工夫が必要。
- 意見の公表の取り組みが少なく感じる。例えば、パブリックコメントや意見交換会において、内容の周知場所と結果の公表場所に整合性を持たせた方が良い。市として、内容の周知と結果の公表について、基準があってもいいのではないかと。
- 内容が高度に専門的であるため、市民からパブリックコメントで意見が出ないのではないかと。
- パブリックコメントにおいて例えば「スプロール化」等、専門用語について解説がなく、住民に対しわかりやすく説明するという意思が感じられない。
- 専門用語等については、他の事業でも市は、みんな分かっているという前提で伝えてしまっている部分もあると思うので、市民参加推進会議から変えていけるよう提案していくのも手だと思う。
- 市街化調整区域に住んでいる市民の意見交換会への参加が少ない。開催する場所に応じて開催時間の設定できると良い。
- 市民参加の手法として、意見交換会を行っているが、実態は説明会のように感じた。

- 説明会に参加する人数が開催場所・時間等により変動が大きい。コメントの集め方、開催日時等、工夫ができたのではないかと。
- その他の手法で挙げている説明会は、意見交換会の延長と考えられ、「その他の手法」としてカウントできないのではないかと。
- 地域の住民に密接した内容なので、興味を持ってもらう方法として、周知のために自治会を通じた回覧を行っても良かったと思う。
- 興味がない人でも、事業を実施していることを知ることによって参加することもあると思う。そのため、まず知らせる手段として、図書館等人が集まる場所での周知も効果的だろう。
- 市民参加を実施しているものの、この事業では、実質的には行政の権限を中心としているため、市民参加の対象事業としなくてもよかったのではないかと。
- 事務処理市移行推進事業は法定上の事項についての事業であり、一般的には市民参加を行っていない。白井市が市民参加の該当事業として扱っているのは素晴らしいと思う。

## 2. 白井市地域防災計画素案策定事業

### (委員の主な意見)

- 地域防災計画の策定は重要な施策であるが、パブリックコメント（意見公募）の募集期間が16日というのは非常に短い。また、募集期間に比して、提供した資料は639ページと多く、意見を求める努力が見られなかったように感じる。
- 市民からのパブリックコメントへの意見に対する市の回答が4カ月以上経過した後に公表された。市民からの意見や質問の中身が専門的で難解な内容であったとのことだが、公表する姿勢に問題を感じる。
- パブリックコメント等において、専門性が高いと意見が出てこない。計画の素案策定に、市民の意見が十分反映されているのか疑問である。
- パブリックコメントにおける意見の公表がホームページのみで行われているが、インターネット等を利用できない方々に不利益とならないよう配慮してほしい。
- 意見交換会の対象者は団体関係者のみであり、限定的である。重要な施策であるため、一般市民も対象とした方が良かった。また、意見交換会における資料や概要をわかりやすく公表すべきであった。
- 意見交換会について、自治会長の推薦があれば会議に出席できるということであるが、わかりにくいので、事前周知の方法を改める必要がある。
- 意見交換会の開催が、積極的に公開されていない。何か公開できない理由があれば、明示すべきである。
- 意見交換会の開催日を平日夜間、土日休日に設定したことは評価できる。
- 地区別の防災マップ作りは、なぜ非公開としなければならなかったのか。一般市民を対象に実施できると良かった。  
(事務局補足：防災マップ作りは公開で行われたが、周知の取り組みが少なく、結果として限られた人の参加にとどまっていたと思われる。)
- この事業では、市民参加の手法として、審議会を取り入れるべきである。

- 地域防災計画およびマニュアル作成は市民の生命、財産等を守るために大切な施策なので、さらに一般市民の参加の機会を検討すべきである。また、市民の防災意識を高めることに力を入れていただきたい。

### 3. ゴミの減量化・資源化推進事業

#### (委員の主な意見)

- 審議会について、どんな会議を行っているかをしっかりと公表してほしい。
- 女性の方が身近だと思うので、女性の公募委員を増やせばよかった。
- 男性でもきちんとやっている方はいるので、委員募集も平等でいいと思う。
- 審議会への委員の出席率が良くない。2回しか会議を行っていないが、2回とも出席されていない委員もいるので、日程調整や委員の選任に問題があるのではないか。
- 会議の日程は平日昼間に設定されているが、傍聴者の参加も考慮した日程で開催したほうが良い。
- 審議会の結果は公表されているが、会議録しか公表されていない。配布した資料の公表も併せて行うべきである。
- ゴミの出し方やゴミの軽減は市民によく考えていただかなければ進まない。この手法でよかったのか。
- この取り組みに対して、市民が関心を持っていないように感じた。市は市民に対してもっと関心を持たせるよう、周知に工夫をした方が良い。
- 家庭でゴミが出る主な原因は、外から持ち込まれた商品の過剰包装等によることが多いため、その意味ではもっと企業の参加があったほうが、実行性が高いのではないか。

### 4. 第6期白井市高齢者福祉計画・白井市介護保険事業計画策定事業

#### (委員の主な意見)

- 審議会は5回開催されているが、審議内容に対してそれぞれの審議時間が1時間程度と短いように感じる。いたずらに長くする必要はないが、審議会を形式的なものにせず、もっと充実した議論ができるようにする必要がある。
- 市民の意見を大切にされた方が良いので、その意味では審議会の公募委員の比率が少ない。また、より地域の意見を吸い上げるために、各地域から公募委員を選出したほうがよかった。公募委員の決定にあたっては、地域のバランスを考慮すべきである。
- 公募委員に女性を多く採用している点は望ましい。
- 会議録は情報公開コーナーだけでなく、ホームページにも公開すべきである。
- アンケートを実施していることを、広報しろいで周知しているが、ホームページ等の市民の目に届きやすいところで、さらに周知できるとなおよかった。

- 意見交換会やその他の手法で行ったアンケート調査の対象者が顧客（サービス受給者）の意見収集となっており、本来の意味での開放型の市民参加とは異なる。市民参加の手法として評価しなくてもよいのではないか。  
→担当課からも市民参加の手法として取り扱うことが適当かどうかの相談が事務局にあったが、白井市市民参加条例では、事業者も市民として取り扱っており、市民参加の「手法としては」適当なものであると考える。（事務局発言）
- 市民参加として扱うのであれば、この意見交換会を開かれた市民参加に転換するために、意見に対する市側の意見表明が重要になることに配慮してほしい。
- 情報を公開する際に、情報公開コーナーで提供していない場合があったが、情報公開コーナーでも情報提供を行う方が良い。

## 5. 子ども子育て支援事業計画策定事業

### （委員の主な意見）

- 審議会の公募委員は 3 名と著しく少ない。また、審議会の委員構成も偏っており、18 名の委員のうち、公募委員は 3 名の他、学識経験者 1 名、行政機関等の職員 1 名なのに対して、公益団体の代表者 13 名となっている。本審議会は市民感覚を大切にする審議会と考えられるので、公募委員の割合は 30～50%（5 名～9 名）が適当ではないか。
- 公募委員の出身地域は、市内全地域を網羅すべきではないか。
- 審議会開催に関する事前周知の方法が、情報公開コーナーへの掲載だけであり、少ない。
- 会議の時間帯の決定要因が「特になし」にも関わらず、異なる時間に開催されていることは問題がある。
- アンケート実施の際に、幼稚園や保育園、小学校の保護者等の協力を通じてより多くの意見を集約できれば良かった。
- アンケート調査の対象者を、今子育てをしている小学校就学前や小学校児童の保護者に限定せず、子育ての経験がある方に当時必要と感じたことを伺うなど、対象の範囲を拡大する必要があるのではないか。
- アンケート結果を公表する場合、ホームページだけでなく対象となる方が目に付く場所に公表してほしい。情報公開コーナーや窓口での公表や、幼稚園や保育園、小学校 PTA への公表があると良かった。
- 子育て世代は、ICT(情報通信技術)にも比較的通じていることから、ホームページを中心に様々な媒体での情報公開などを充実させ、参加及び参画の意識を啓発してほしい。

## 6. その他の意見

- 「作成手順」により、調査票と広報しろいを判断材料としている委員と、その他の情報公開コーナーやホームページ等も判断材料としている委員がいると、採点の際の「物差し」が変わってしまうのではないか。

### (事務局)

- 原則として評価作業については、事務局が提供した資料をもとに判断していただければよい。ただし、補足的に情報公開コーナーなどで自ら調べた事柄を評価に反映させることを否定するものではない。また、評価作業の際に感じたことをコメントで指摘いただければ、評価内容により深みが出ると考える。

## 7. 閉会 池川会長

- 5つの事業の審議が終わり、残るところ1事業となった。最後は市役所庁舎整備事業になるが、一番皆さんの意見が多いと思いますので、時間をかけていきたいと思う。
- 今回5つの事業が終わったが、今回話し合った部分も含めて、どうしても訂正したい部分は評価を見直していただき、次回会議で修正していきたい。
- 次回会議は10月22日(水)、午後3時から市役所3階会議室2で行う予定である。

[第3回会議終了 午後5時17分]